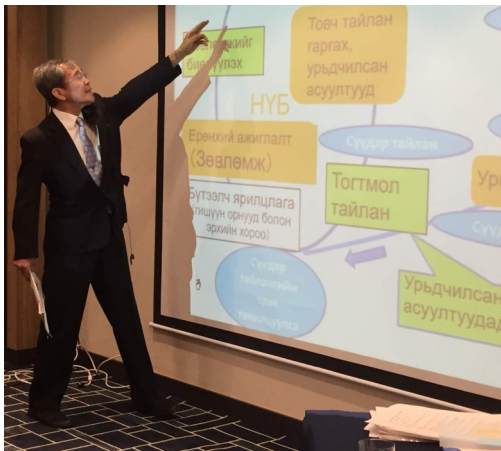


ウランバートル市における障害者の社会参加促進
プロジェクト(DPUB)

CPRDパラレル・レポートセミナー (2018.05.16)

日本社会事業大学の佐藤久夫教授にお越し頂き、障害者権利条約に対する「パラレル・レポートの意義と効果的な書き方」と題しセミナーを開催しました。障害者権利条約は、障害者の社会参加を進める骨子となる条約で、モンゴル政府は2009年に批准し、現在その実



佐藤久夫教授

施に取り組んでいます。一方で、政府の取組に関し、NGOセクターから意見表明をすることができます。その報告書がパラレル・レポートです。今回、モンゴルの主要な障害者団体の代表が参加し、パラレル・レポートの書き方や提出までのスケジュールを佐藤教授とともに確認しました。佐藤先生はニュージーランドの事例を参考にしながら、効果的な書き方を説明し、参加者はもちろんDPUBプロジェクトとしても参考になりました。これからモンゴルの障害関連NGOはパラレル・レポートの作成に取り組めます。障害者の社会参加を促進する効果的なレポートが作成されることを期待しています。

NGOという仕事



チーフアドバイザー千葉寿夫

カンボジアで初めてNGOの仕事に付きしました。最初は、草の根、現場、まじめ、薄給というイメージがあり、入ってみるとほぼその通りだったのですが、思ったより大規模にして本当にまじめに皆さん仕事に取り組んでおりました。ただどうしても馴染めなかったのが、反政府主義的な方針です。反体政党というか、兎に角、政府の方針には反対する傾向が強かったように思います。政府に住民のニーズをしっかりと聞き取るように主張していましたが、現場には開発に反対する住民と賛成する住民の両方が存在するわけで、そのどちらのニーズを取り上げるのか、正しいと考えるのか、この判断は結局、自分自身の価値観によるものと思いました。その意味で、自分の価値観と今回のNGOの価値観が少しずれていたのかも知れません。ただ幸いにも直属の上司は、客観的な報告書を求めていたので、私の報告書は受け入れてもらえました。この経験で、真のニーズとは？また必要な開発とは？などについて真剣に考えることができました。いまでもニーズ把握には、客観的な情報と主観的な価値観の両方が必要と考えています。さて結局、このNGOで1年働き、その後何をしようか考えたところ、やっぱり国連で働きたいと思うようになりました。そして働くなら障害分野が良いと思い、NGO契約が終わる頃、昔の上司に連絡したのです。(つづく・・・)



東田専門家

新しい専門家の着任

「2018年5月に磯部専門家の後任として着任した東田全央(ひがしだまさてる)。これまで日本(被災地含む)やスリランカの農村等の障害分野・精神保健福祉分野で、ソーシャルワーカーとして活動を行ってきました。モンゴルは初めて来ましたが、皆さんとこれから活動を進めていくことを楽しみにしております。モンゴルでの生活も楽しみにしております。妻も6月には到着予定です。どうぞよろしくお願いいたします！」

「課題別研修：地域活動としての知的・発達障害者支援」の帰国報告会を開催しました (2018.05.08)

モンゴルの障害者支援の中でも最も遅れているといえる知的障害児・者への支援。今日はプロジェクトオフィスにモンゴルの知的障害児支援団



研修参加者のバドムツェレンさん

体、日本の障害児・者支援団体が一堂に会し、日本研修から戻ったバドムツェレンさんの帰国報告会を行いました。彼女が見てきた日本の福祉サービスや就労支援は社会保障、福祉制度があってこそ。そのままモンゴルに導入することは難しいものの、幼稚園や小学校の先生が、その子の将来や就労などの先を見据えた支援を行っていく姿勢をモンゴルの先生たちにも共有して行きたいそうです。プロジェクトもバックアップして、報告をモンゴルの国立幼稚園や小学校の先生方へ学びを共有する機会を作ろうと思っています。



報告会

障害児親の会を訪問 (2018.05.15)

4月30日の午後は、久しぶりに「障害児親の会」を訪問させて頂き、今後の協力について意見交換をさせて頂きました。現在、アクセシビリティや障害平等研修 (DET) を中心に進める中で、なかなか親の会さんと協力して実施できる活動が少ないのですが、障害者権利法の見直しにおける知的障害児・者支援の拡充、就労に向けた知的障害理解研修、雇用主や企業に対するDETなど、できる範囲の協力を模索しました。ただやっぱり、社会保障制度の拡充が重要と感じました。日本を見ても、政府



意見交換後

からの委託金で社会福祉法人やNPOが運営されており、これなくして支援組織の運営は非常に困難です。途上国の場合、社会保障制度が十分に整備されていないので、政府からの委託金も受けられず、NPOの運営は困難になります。今後、障害者の社会参加を進めるには、地域の資源を活用しなければなりません。そのための社会保障制度の拡充が必要と痛感させられた訪問でした。これからさらに頑張ります。



JICADPUBのFACEBOOKページに「いいね」をお願いします。

NTVとの連携 (2018.05.16)

「ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (DPUB)」は、モンゴルにおける障害理解をさらに進めるため、NTVと連携し、障害啓発に取り組むことにしました。DPUBでは、これまでも障害平等研修 (DET) を活用し、障害理解を進め



契約書を交わした

て来ましたが、これからは社会全体に情報を発信し、障害理解を進めたいと思っています。今後、ニュースで取り上げられることが多くなると思いますが、ぜひ皆さんも応援よろしくお願いします。一緒に障害者の社会参加を進めましょう。

＼ついにお披露目障害者白書！／

労働・社会保障省のウェブサイトにて、モンゴル語、英語、日本語で掲載されました♪
www.mlsp.gov.mn/nnews/298

DPUB連絡先

Office: Government Building - 2, United Nation's Street - 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar - 15160, Mongolia
Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>
Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>
E-mail: dpub.jica@gmail.com